

◆新技術定着試験

ヒトエグサ養殖試験

石川 貴宣

1. 目的

多良間村での新規養殖参入者への養殖試験による養殖技術の取得及び定着を行う。

2. 方法

多良間村普天間港東側に免許された第1種特定区画漁業権漁場（特区412号）内に網を20枚張り試験的にヒトエグサ養殖を行った。

①採苗前に漁場での網を張る高さを調査。

②9月の大潮時（旧8月15日前後1潮）に採苗のため、網を20枚設置。

③10月以降、本張り設置および生育状況の確認、収穫作業。

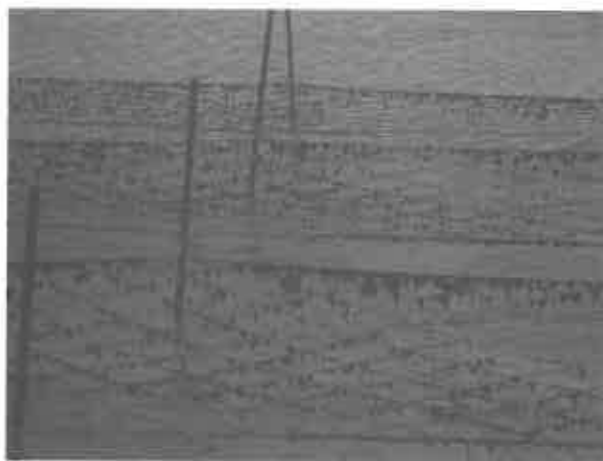
3. 結果

平成16年9月14日に多良間村役場、漁業者の協力により漁場調査をおこなった。調査時は、ヒトエグサの幼芽は確認できなかったが、時期になると調査場所一面ヒトエグサが繁茂するということであった。

平成16年9月26日に採苗のため網を5枚重ねにし、網を20枚張ったことを役場職員から知らされたため、平成16年10月28日に現場を確認したところ網の張り方が悪く高さが一定でなかったり網の張り方が弱く、干潮時も海水に付いている部分もあった。網には、一枚あたりほんの数カ所ヒトエグサの幼芽がみられた他、海水に付いているところはアオノリの仲間と思われる海藻も生えていた。ヒトエグサの幼芽は、まだ周辺の岩盤上にもあまり見られず、アオノリの仲間と思われる雑藻が繁茂していた。網の高さを一定にしピン張りするように指導した。

平成16年12月27日に11月に本張りした網の生育状況を調べた。網に生えているヒトエグサの長さが長いところで2cm程度であった。採苗時

の網の張り方が悪かったせいなのかまばらに生えていた。また、網の高さが天然に生えているヒトエグサの高さより少し高い場所に網を張っているためか、採苗時にみられたヒトエグサ以外の雑藻はみられなかった。



平成12月27日時点でのヒトエグサ

平成17年1月25日ヒトエグサの生育状況を確認したところ、まばらではあるが心配していたよりも多く生えていた。



平成17年1月25日時点でのヒトエグサ

平成17年2月9日にモズク用収穫ポンプを使

用し、試験的に収穫をしたがポンプの吸入する力が強いので細かくちぎれてしまった。

平成17年3月10日網に生えているヒトエグサの長さが7センチ程度あったので試験的に網5枚から収穫。作業はハサミを使用し3名で行った。収穫量は20kgであった。



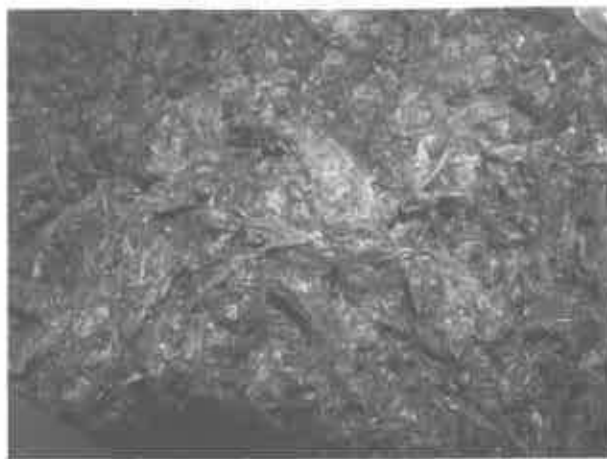
収穫作業

初めて経験する作業のため、網に付いているヒトエグサを短く残してつみ取ることがなかなかできなかった。

平成17年3月31日に2回目の収穫を行った。つみ取りは3名1回目と同じくハサミを使用。網15枚から30キロ収穫



収穫したヒトエグサ



収穫後脱水したヒトエグサ

4. 考察

初めての養殖ということもあり、採苗時の網の張り方が、悪く斜めに張っていたり高さが一定ではなかったりしたため、種の付きが悪くまばらに生えてしまった。この経験を生かし、今回使用した鉄筋に生えているヒトエグサの高さに合わせ網をきちんと張れば次回からは、もっとたくさんのヒトエグサが収穫されると思われる。

5. 今後の課題

①今回の試験場所が岩盤の上だったことから鉄筋を打ち込むのが大変であるため、沖側底質の砂地での網の展開の可能性検討。

②効率的な収穫方法の検討。ハサミではなく、ノリ摘み機の使用やポンプを使用した収穫の改善。